

平成29年度広島市立舟入高等学校入学式式辞全文

本日ここに平成29年度広島市立舟入高等学校入学式を挙げるにあたり、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

さきほど、361名の入学を許可いたしました。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。ここ、舟入高校で君たちに出会えた幸運に感謝いたします。入学にあたり、君たちに大切にしてほしい三つのことをお話します。

最初は二つの時間について。ひとつ目は、人の話を聞き理解しようとする時間です。人の話に耳を傾けることは決して受け身の姿勢ではありません。小さな声を聞き分け、その声の本当の意味をつかみ取ろうと務めるのが、耳を傾けるということです。その時間は授業であり、学校で友人と過ごす時間です。ふたつ目は、ひとりで過ごす時間です。それは、家庭学習の時間です。自分自身との対話の時間でもあり、自分の中の他人と対話する時間でもあります。自問自答を繰り返すことで、君の知性が磨かれ、君は自分の限界を超えます。

次に、言葉について。君は、君の言葉を、対話の道具として使ってほしい。相手を黙らせる言葉、一方通行の言葉には気をつけてください。君の言葉が刃物に成り下がっているかもしれないからです。ただ、初対面の相手からも必ず戻ってくる言葉があります。それは、あいさつです。声に出して、あいさつをしてください。君はひとりではないことに気づくでしょう。

最後に、君の夢について。夢は、言葉にして、他人に伝えてみてください。それが、約束するということです。約束は、自分を変えていく第一歩です。約束は一人ではできません。自分を変えたいと思えば、君は他人を必要とすることを知るでしょう。同時に、他人も君を必要としていることにも気づくでしょう。もちろん、守るのが難しい約束もあります。報われない努力もあります。遠回りするのも良いことです。君たちには三年という時間があります。

舟入高校は学習するところです。今までは通用したが、これからは通用しなくなることも多いはずです。高等学校では、遊びながら自然に身につくものはありません。身につけようと努めて学んで、初めて力がついていくものです。子どもの学びから、大人の学びへと変えるのです。そのためには、華やかでわかりや

すい大きな声に踊らされてはなりません。学ぶべきものは、むしろ、はるか遠くから届くかすかな声に隠されています。しっかり見開いた瞳をもち、この世界が驚きにあふれていることに気づいてください。そして、将来、誰かが準備した解答に満足せず、それを問いに変える大人になってください。その基礎を作るために、多くの教科を学習し、仲間と活動し、一人になって考える。そういう三年間を過ごしてください。

保護者の皆様。本日は、おめでとうございます。お喜びも一入と拝察いたします。私どもは、一人ひとりの生徒が各自の境界線を越えていく力を身につけることを目指して指導してまいります。

生徒にとっては、何不自由なく活動できる環境が用意されていることは幸運なことではありましょう。しかしながら、パスカルは言います。

「あまりに自由なのは、よくない。必要なものがみなあるのは、よくない」

現実には様々な制約や誘惑があります。私どもは生徒が望むことでも、させないことがあります。気が進まないことをやらせることもあります。敢えて高いハードルを用意して、飛び越えさせようとすることもあります。本校生徒は、仲間とともに切磋琢磨し、支え合い、高いハードルを乗り越えようとするでしょう。たとえ失敗してもチャレンジするでしょう。この積み重ねを通して、子供から大人へと成長していけるよう、全力で支援してまいります。保護者の皆様には、本校の教育にご理解をいただき、ご支援を賜りますことをお願い申し上げます。

平成29年4月7日

広島市立舟入高等学校

校長 日浦 毅